

令和6年度病虫害発生予察情報 予報第11号（11月）

令和6年11月13日
発表：福島県病虫害防除所

1 野菜・花き

作物名	病虫害名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	多発すると防除が困難になるので、発生初期から薬剤防除を徹底する。
	土壌病害（萎黄病、炭疽病）	全域	—	やや多い	発生ほ場割合は、平年よりやや高かった（+）。	発病株及び発病が疑われる株は、見つけしだい抜き取り、ほ場外に持ち出すなど適切に処分する。
	アブラムシ類	全域	—	やや多い	発生ほ場割合は、平年並であった（±）が、天候予報（仙台管区気象台11月7日発表）によると、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されている（+）	低密度時から薬剤防除を実施する。
	ハダニ類	全域	—	やや多い	発生ほ場割合は、平年並であった（±）が、天候予報によると、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されている（+）	低密度時から薬剤防除を実施する。 抵抗性の発達が懸念されるので、殺ダニ剤の選択には注意する。 カブリダニ製剤を放飼している場合は、天敵に影響の小さい薬剤を選択する。
	コナジラミ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった（±）。	低密度時から薬剤防除を実施する。
野菜・花き共通	ハスモンヨトウ	全域	—	多い	発生ほ場割合は、平年よりやや高かった（+）。また、県内各地におけるフェロモントラップの誘殺数が多い状況である（+）。	防除が遅れると被害が大きくなるので発生初期に薬剤防除を徹底する。

注）予報の根拠の中で（+）は多発要因、（-）は少発要因、（±）は平年並要因であることを示す。

○注意が必要な病虫害

イチゴ	<p>■萎凋病、萎黄病、炭疽病</p> <p>これらの病害を防ぐためには、まず無病苗からの採苗、育苗を徹底することが基本的対策となります。今年度、ほ場で発病が確認されている場合は、見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出すなど適切に処分してください。また、次年度に向けて以下の対策を実施してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 育苗用土壌やポット等の資材を一斉に更新する。 ② 炭疽病は、水媒伝染するため、親株を育苗する際は雨よけ育苗や高設育苗を行うとともに、頭上からの灌水を避ける。 ③ 発病株、または発病が疑われる株は、見つけしだいその周囲の株と土を含めて丁寧に抜き取り、適切に処分する。 ④ これらの病気が発生したほ場で連作せざるを得ない場合は、土壌消毒を実施する。 <p>なお、イチゴの土壌病害の簡易検定方法について、病虫害防除所ホームページの病虫害ライブラリー（野菜花き</p>
-----	--

	<p>類の病害虫、イチゴの病害)に掲載しているので参考にしてください。</p> <p>イチゴの病害：https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/433111.pdf</p> <p>注意喚起 イチゴの土壌病害対策：https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/itigodojoubyougai.html</p>
<p>冬春トマト (施設栽培)</p>	<p>■トマトキバガ</p> <p>本種は、体長約5～7ミリの微少な蛾で、南米大陸が原産です。トマトなどのナス科作物に大きな被害を与えており、幼虫が茎葉や果実をせん孔しながら加害します。</p> <p>今年度、県内4地点に設置したフェロモントラップ調査では、7月以降に誘殺が確認され、9月に増加しています。冬春トマト施設内で発生のおそれがあるので、ほ場をよく観察し、見つけしだい捕殺し、薬剤による防除を実施してください。被害様相の詳細については、令和6年度病害虫防除情報(令和6年8月28日付け発表)を参照にしてください。</p>

より詳しい発生状況や防除対策は、

福島県病害虫防除所ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/> をご覧ください。

お問い合わせは TEL:024-958-1709、FAX:024-958-1727 または e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp へお願いします。